

# くすのき

親和女子高等学校 進路通信 高校3年 2021年度第3号

## 《学校の安心感》

6月に入ると、いよいよ受験勉強が本格化していくことと思います。これまでのウォーミングアップ期間が終わり、いよいよ、という感じかと思えます。

あなた方の多くは経験していないわけですが、よく云われているのは、「高校入試は通すための試験で、大学入試は落とすための試験」ということです。入試の得点は、素点のままという大学もありますが、多くの大学は様々な傾斜をかけて、小数点第2位まで出して、合否の判定をします。例えば、教科の得点150点満点を100点満点に換算したり、合計点900点満点を500点満点に換算したりします。そうして、そこに生じた細かい数字で合否の判定がなされます。したがって、わずかに0.1点で不合格となるというケースはままあります。実際以前勤めていた学校の生徒で、0.1点で浪人をした生徒はいました。それが、大学入試の厳しさ、落とすための試験、と云われる所以です。合格最低点から5点も離れていれば、「惜しかったね」などとは云わず、「力不足だね」と云われるのがオチです。

あなた方の先輩の体験談を読んでいると、がむしゃらに脇目も振らず突き進んでいった者のみが持つ爽やかさを感じます。時にはハジけることをしてストレスを解消しながら、メリハリをつけた日々を過ごしています。第一志望の難関校の受験会場で周りを見回した時、軽いメイクすらせず、髪の毛はボサボサで必死にやっている人が多く、これほどまでにこの大学への思い入れがあるんだ、と改めて感動した、という話がありました。自分はこの中の幾人かと、今後同じ時間を過ごすのだという嬉しさや頼もしさも感じたのだと思います。

いくつもの我慢をし、耐えて過ごす日々。苦しみながら、もがく日々。それは、つらい部分ではあるだろうけど、決して一人でなく、受験生は皆同じ思いをしながらやっています。

現役生にとって学校は、一人じゃないんだ、という実感と安心感を与えてくれる場です。真摯に取り組んでいって下さい。

## 《入試制度あれこれ～一般選抜～》

入試には、**一般選抜**、**学校推薦型選抜**、**総合型選抜**といったタイプがあります。

**一般選抜**は、最も多くの受験生が活用する方式であり、実際に筆記試験を受けて行うもので、**国公立大学は、共通テストと2次試験(個別学力検査)**の合計結果で判断されます。2次試験は、前期日程と後期日程に募集人員を振り分けて選抜します。一部の公立大学では中期日程も設定されています。したがって、受験生は同じ大学を2回受けることも、前後期で別の大学を受験することもできます。中期も活用すると最大3校の受験が可能です。但し、最近募集人員が、前期：後期＝8：2で圧倒的に前期に集中しています。また、東大や阪大のように、後期日程を廃止したり、京大や名大・一橋大のように、一部の学部のみ設定する大学も増えてきています。**国公立大学は前期日程中心**と考えるのが良いでしょう。

**私立大学**の場合は、共通テストを利用するタイプと、複数回の受験日を設けたり、受験科目数の可動域を広げたり、様々なタイプがあります。自分が受験しようと思う大学の入試制度は、一度じっくり調べて下さい。ただ、注意してほしいのは、**受験科目が少なくなればなるほど、限られた科目での高得点が要求されます**。勉強がしんどくなってきて、受験科目が少ない大学へとスライドしようとした時、例えば社会が無理だあ、と思い、英語・国語だけで受験できる大学にスライドしようとした時、英語・国語の力がないと、かえって首を絞めてしまう結果になります。逆に、私立大学の多くで3教科受験が主流ですが、立命館大学の共

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。

通テスト利用型の場合、7科目利用までできます。当然利用科目数が多いほど、合格最低点の得点率は低くなるわけで、万遍なく勉強している者の方が有利になります。そのあたりも考えて、教科の絞り込みは熟慮していきましょう。

### 《入試制度あれこれ～学校推薦型選抜～》

**学校推薦型選抜**は、**学校長の推薦を受けないと出願できない**ものです。調査書の「学習成績の状況」（いわゆる評定平均値）が一定の水準以上といった条件があります。また、この選抜方法には「公募制」と「指定校制」の2つがあります。また、国公立大学と私立大学では若干様相が異なります。まず、**私立大学**から見いきましょう。

「**公募制**」は、小論文、適性検査、面接、基礎学力試験、調査書などの書類審査といった様々なものを使って選抜します。最近**は適性検査や基礎学力試験を課す大学が多くなっています**。時期も9月～11月くらいが多く、その中で高得点を要求されるわけですから、1学期の今の時期に受験勉強が軌道に乗っている者でないと合格は覚束ない、と思ってもらった方がいいでしょう。

一方の「**指定校制**」はこれまで「指定校推薦」といわれたものです。大学が指定した高校に指定人数枠を設けて、高校へ連絡をしてきます。「**学習成績の状況**」が**一定の高水準**であること、人物が高校の模範的生徒であること、大学・学部に対する強い思い入れがあり、大学での学習意欲が高いことなどが条件になります。また合格すれば必ず入学することは必須条件であり、入学後は大学での成績は高校に知らされ、もし成績不振であれば、次年度以降の受験生に指定校の枠がなくなったり、減少したりします。まさに、「**高校の顔**」として振る舞うことが要求されます。

一方の**国公立大学**の学校推薦型選抜は、ほとんどの大学で実施されていますが、**募集人員は極めて少ない**。また求められるのは、学習成績の状況、小論文、プレゼン、口頭試問、実技、教科・科目に関わるテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど学力を確認する評価などがあります。共通テストの成績に関しては、最近要求する大学が増えています。

### 《入試制度あれこれ～総合型選抜～》

**総合型選抜（旧AO入試）**は、エントリーシートを含めて受験生からの提出書類が多く、面接、論文、プレゼンなどを課し、適性や学習意欲を、**時間をかけて総合的に判断**するもので、第3の入試とよばれています。

多くの私立大学のそれは、エントリーシートの提出から複数回の面接・面談を経て、人物評価や意欲、マッチング率などを考慮して合否を判断していきます。第一志望ならともかく、**気楽に受けてみようかな**などと思って受験すると、**勉強時間以外**に論文の作成や面接の練習などに**多くの時間がとられたり**、体験プログラムへの参加が出願条件になっていたりして、もし不合格となったならば、時間的ロスを嘆くこととなります。

国公立大学のそれは、**学校型推薦選抜よりも緩やかな場合が多い**ですが、「有資格者」「全国レベルコンテストの入賞者」といった条件があったりします。書類選考から面接、小論文などがあり、大学によってはセミナーやスクーリングへの参加が求められ、**2学期の大半の時間が費や**されます。私立大学同様、合格率が極めて低く、不合格の場合の時間的ロスに対する焦燥感は半端ではないと思います。

### 《後記》

8月上旬に**全統共通テスト模試**が校内で実施されます。この模試は受験者数が多く、またレベル的にも良識的な問題が多く、己の力を知るのに適しています。受験を勧めます。

夏期講習や面談、模試、大学案内、などなど、日常生活が刻一刻と受験色に染まっていきます。焦らず、己の進む道を作っていきましょう。

先日世読んだ本の中に、最近大学では、女子学生のリーダー性と男子学生の従順性が目につくようになったとありました。あなた方親和生の活躍が期待できるのでは、と思いました。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

[進路通信]などの進路指導部が発信する情報の一部を親和女子高等学校HPでも閲覧できます。